丹鶴叢書

前参議教長卿集　下

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494607

帝室博物館圖書之印

前参議教長卿集

恋哥

讃岐院位おはしまし時百首うたまいらせし

て初恋をよめる

くもゐにてたちかくれぬるあまのいつるをていてゝまつるのみ

内裏十首のうちこゝろてゝ初恋をよめる

うけしらすてゝたちかくれぬとくをまちこしはまをみてあさりなん

おもひてたちそめしかは

いもをおもふたちかくれぬるよりはあはぬ涙をたちそめしかは

風雅恋一

慶應義塾圖書館

さのこやハおもぬくしのゑへこしまてもこひちふたハたぬる
いつくにひるむるよりおのゝきつゝむものゝきりせよるを

初聞名恋　　句題百首

いまたしもさて人あひつるおもかけも名をとゝられてハあはてむすさく
説政院位中将の哥に物思ふ恋の人とよめる
あふことハこひしよりもこひまさるへきとしてもまつる人をみれ

内裏十五首会に同し心を

思ひつる涙の露と人とてもきえぬまし袖をしる人哉
おもひしらるゝ
志のゝをとらにまてものをもふなハいのちへまつる命とらいかにせむ

恋ひわひて絶ぬるむねのおもひにもたえぬハきえていつまてあるへき
続後撰恋一
なきさ川人めつゝみをせくとてもをとなしのたきつせのまよ
いまをむ涙よ袖の朽てもこゝしさ恋とハ何よ清ますらむ
夢のまの浮世ハもたらん恋てもいかにおもひ人ちる人あるハ
こゝろしてゆ恋しとかゝる思ひを思ひとのそ浮よみをまし
たくひなき恋の涙とさいしとれハなへもふりての夜とやこそむ
恋つさハいつしおもひふかぬえしいのちへ人まちもちらきん
なにとしもおく猶をとやの折よおもへるるの名よしもかふる袖らん

思ひ餘る恋

思ひの猶つゝみもみをし涙ハいまてやむへき恋のちたかる猶を

思久恋

ときをの同じなるえをふきぬるあきくれてむものゝ

悼人百首

きえまつぬ涙のをとをいとまもせのをとゝれさまいへるかも

澄院住吉社の百首の不遇恋

ゐるをハ心をゝれをもをぬしなをとをのあまをもあき

おなしさて涙を

をのもしれのゐををもぬをとつををあき人ハををををを

をゝれあををををあをををををしををををを人

いををあををををををををををををををををををををを

おをををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををを

いをををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををを

人をををををををををををををををををををををををを

みをををををををををををををををををををををををを

あをををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををを

ををををををををををををををををををををををををを

さとふりやまかけにほのもとてぬれにけんみなからなくならねは
おもひさえてみえつゝるまてやつらきこゝろとそなれやはてる

旅宿不遇恋　　句題百首

秋をまちむかふむしろも篠まきさとをとふさぬ恋しきるれ

行不遇恋

月まてし昔人に家をもとめて山もあまてけのつまもむ

讃岐院位の御時の百首に遇恋をよめる

秋の夜そらしからとを逢こそのあふぬんそふやすまし

毎書遇恋

咲んとなきいはひんむれにふるすおもてのこすも袖そてぬれてそれ

すまの浦の月みし波に袖ぬらしまたまなしと待ちられき
かつらきの神よりつる恋なれやくもるをとむあくるとそまつ

讃岐院位御時百首の後胡に

あまそのゝ袖のしらせとなさけありあふよもしのこるくもなくてうせ

顕輔卿家歌合に同心を

かへりてし袖なる白し白月もなし秋空そまに露そおきそふ

後胡待事　本ノ　句題百首

ちりをしまいてもむねのさを待らしるとまなさかむつき

後朝恋

いつかとへまちしとしのぬれてくらしやかのこのつまきつむ

くれぬる秋としもやせつらんやうてとくてもいそぎまし

暁不逢恋

ゆふぐれとなしやとしもあかつきの鳥の音を待かねしよりはさとめなのことばよそふる汁つゆとをてらうつよもすがらよまぬ

讃岐院位の御時の百首に遇不遇恋とよめる

花鳥川にあふをてふもちぬとぬきてまさしりてぬるのそらかりとき

内裏十五首歌合にをもてまゐらせらるゝを

あやかししらぬ人達をいふおもひよるのへなからひに

あかぬさら後をよめる

つゝのしし昔かるゝの橋なれやくるしきはしせきまよしとの

絶後恋

いつしかと恋しといひやらむ空にはそれともやさしく

さぬきの院位の御時の百首に旅宿恋とよめる

草枕おくしら露をかこつとてたまさかにぬるゝ袖かな

旅宿遇恋　右兵衛督

あつまぢのまくらにむすぶ夢ならでもはかなくあはぬ夜半をうらむる

羇中恋

恋しさもつゆちらでたびのそら草の枕よいかにせよとか

内裏十五首歌合　船中暁恋

あかつきをまちこふ舟出といふくらん空にきこゆる旅のうち

讃岐院位の御時の百首のうち

恋しさにたへし網のあひてもやうてといひやまさてくる

同　恋そへり行思

まれにそ見ぬ人をとひけるいかなる鳥のねにかなかれん

同百首　恨と

くやしくそといひ絶なてうき夜の[illegible]しもうらみ侍るの礼

讃岐院の百首　[illegible]の恋歌

川のせにおもへるむものうちなるきこえまんへはよきことのと

かくよう涙の河ぬれやうきは[illegible]つ[illegible]のうきむまてかれさ

いつのまもあまのなるとに川[illegible]の[illegible]入ぬてさ恋のやまひを

世の人はなさけおくふかのすちるかひなさき誰をや我はなさきつる

夕暮そと[illegible]のうき風そよくいふ人はなさき恋てくる[illegible]

千載恋二

いのちあり恋路はなさてて越なの途はとしはゆくとしまあすのあらん

あつまてもめてなきやのあつさまあるふかひなりまとまのこそ

恋するなるくさ[illegible]れあひむとかくさうもさのめやまとぬ[illegible]

つまはなき恋まつる[illegible]侍るひくし途あるまさうとしんや

恋しふはことしもよねとやうさんあるいはあそつきたとのきぬる

恋そとをてとのまふてよいえさうの涙のいろをいてさつのまむ

涙川うちきのされ[illegible]のいつしへめ流るみもともうきつる[illegible]

なやみくれ[illegible]ものつらしはさて恋るなむむるあまてみえける

新続古今恋五

[illegible]

千載恋三

[illegible]

続後撰恋三

[illegible]

内裏十五首

[illegible]

後鳥羽院御歌

[illegible]

千載恋五

[illegible]

清浦新中納言家の[illegible]

[illegible]

経盛朝臣家の合

[illegible]

対月恋

[illegible]

逐日恋

[illegible]

哥林院前内大臣延約日恋

たのめてもさてぞ忘るなかなかにふさもあらぬくぬく恨侍らん

恨恋

独ぬる床にハ秋の夜の月さへやかこちかほなる

歎絶恨恋

又こと小恨てさてもたえはてゝつれなき人の心のおくハしられじ

あさましや思ひしまゝにかはりゆく人の心のうらみかねつゝ

寄衆着恋

結ひおきし契もいまハかれはてゝ秋の風よりさぞ身にしむ

頃恋歳暮

忍ぶ身と恋のやまひやさすらへてとしもくれぬとちかひしを

契後手恋

結ひおきし手にはなかなかほしたのめてもたのまれぬをハ

障山恋

こゝろ得の三国の山をへだてゝも越かたきハ人のこゝろか

遠ちかふよそにハあらぬ妹をおもひて花よりも白き雪の山越

隔恋

かのつまハへだてなくとも逢ことハ中々にかたき人のうき世

障河恋

たなはたもわたりて逢ふに天の河のさゝぬ袖に我ハなみだちぬる

おもひの河あさくもへだてぬるとハこれをやおなじうちの橋なる

障泥　ヒ

よをそなはるやへのくちもとをるこゝろとしるべきはと
ゝろをこゝとゝぬはもいをもとのもとあのもゝ

田舍　ヒ

ゝをゝ井のあゝゝ一刷ぬるのゝゝれゝるゝゝ

不知左衛門　ヒ

あゝ坂のなゝゝゝゝゝゝゝ関のゝゝゝゝゝゝ

返逆車　ヒ　白居易

ゝゝゝ同一ゝゝのあゝゝゝゝゝゝのゝゝ

説法院　ヒ　十ゝゝ一所ゝ時ヒ

紙屋

さのゝゝゝゝゝぬゝゝの月新のゝゝゝゝのゝゝる

ゝ事　ヒ

ヒゝとのゝゝゝゝ井海をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寒夢　ヒ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ弓　ヒ

ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寒燒　ヒ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寄海恋

軍のすさのみしものとそはてそ見る秋きとたのみをめ

寄琴恋

さよふけてかきなれてとふ松風のうつをしらぬ人のなこりもの

寄笛恋

我恋てふくへきなる笛なれはいとはかりもなきのみん

寄華恋

ときるやとしなれはとめくるをいとはもとる涙ぬてさふ

寄催馬樂恋

たちもの人をたもとの涙をはしぬんとなる秋とて

寄郭公恋

よもすがらなく郭公なれてはいとはしきもいとはしくこそ

内裏衣寄鳳凰恋

さしてとるとしの移ゆくのかなるひとをぬるとしていとはしてを

寄更衣恋

妻の移のもゆるをいふたるとてをみの羽衣きるとしてをは

障屏廉遇恋

みつしく帰しをとをかをとをぬをとををとをとはををををを

見雅恋

かををはをををををををををををををををををををををををを

[illegible]

聞書　[illegible]

[illegible]

[illegible]

疑後　[illegible]

[illegible]

哥書[illegible]新借[illegible]改名隱[illegible]

[illegible]

秘傳女　[illegible]

[illegible]

秘紙書　[illegible]

[illegible]

蔵從者　[illegible]

[illegible]

會友淡　[illegible]

[illegible]

被妨親　[illegible]

恋ちかのむすこと云てやのそいろいろのお坂の恋と成む

至憑おろそ言恋

神のきくとゆふもちろむしと、我とハ我もたくて云しけるん

嫌絲恋　内題正ス

岩こるくんゆゑとやきいくるかるそ志川のとるまれ

依恋被謗人　内題正ス

恋ちのちてもおろふあくはてはくみもあるあ人ゆそ理

内ゑこそ者ゑ食恋ゑちとと

春のゆゆゑまて人のあとくつくいうてふまさかるん

同舎雖聚不来恋と

あくふたゆゆもといゆとたのめゑとまもあの法る

臨終遺約恋

えしきむ人のてもちと枕なくてこと者ちハ

障物淡恋　内題正ス

いくとくあハはくゆ我あくつこのまくくゆしぬる

競人恋　内題正ス

ちちいくくくの深もあハ我もえまくあいくくく

告女侍恋

兵妹ゆくもまこむくて我ゆくもくゆしてまくむんち我ゆ

不告者恋

あつまのかきつばたはなかくるまにてせさせたる

佐忠惜餞の事

をるをとせめてこのかきつばたはおなさまをとまつて惜る

前参議教長卿集

雜部

遊後院信濃守まうしまつりける時五月五日

つまこの祝のまつりごとをよめる

かきつばたの数も知めをこの人へむ世ハきこしめしをかれ

同院の五月五日慶賀を

君の世をそなたにそなたにいはしめ神のんつまをせてそなむ

たかをとおもはもむ神つむとそなへむよの数やあらん

祝ごとをよめる

天子ハ天照神よまをこの世をのをしへのさむ行なて

池水をさ久をたのむとなれはつるよはひや末の世をとくする
としをへておもふ心の中のうれしきにくれる君の数はしらぬ
かけてこそ君のくらゐやさかゆらん末かくてもに松そむすへる
りみつとなるまてしつたやちよまてあふきもむつましきのはいし
さいくさの門のすみよしの松の末々の門はたつい
ささくりのみ法もよかはの宿かすはむへ君世をはうゆゑ
千とせとおもへは松のはかえしおふるあるまつよをはやくちきり
えとよめるその本ノとの君はおかの清くしまし末の世まてに
万代と思しなきをしらまへなるからに海のかきりなけれはそ
春の世も見えぬるまへはあきもせてつらぬまかせとそ神そきかはらむ

とのうえのくちはらをしてへてうつやうえはちよをおくらん
華のむすふ代かへてきたるしうやとさかえの松ものうえかゆらん

内裏の十五首ことに祝をよめる

家と世とのさくまもさかへぬためしにはみえぬるをとへ行ける
讃岐院法性寺の後よのおくらせよるをみて　雲
契る手にすてまを
君のやちよのそよちくらんにそて花色雪のいろをみるへき

同院鳥羽殿にて竹遐年友といふことを

かはたけと数もしらぬよよをへはさのかへや竹は友とならへき
むかしさのなかぬ姫日いつのみかたとちものの

たゝふ法そ〻〻〻る

たてまつるそるいつこのはるあれはこそるそをいそこそんん

解文のそこ〻ふそ〻〻あけをそ名るく〻のそ〻

言る

ん〻〻海さいつこのそをなをこハあるをこ人〻〻くさそえ法〻あや

人のまるはかをそ名あるちこの思ふをこ〻そ

言るそのをこのいぬこそ〻〻海の海ふよ〻く

つる〻言る

そ〻ふこ〻そ〻ふるえハそのやそといそを思ふ海ふせん

さぬをの海信の序附のをそのかり〻

新続古今別

こ〻へやをあつをこのをこ〻をこ海ふいこのなり〻

同魂のをそ〻〻

新後撰別

海〻〻もむをそ〻るるとをれもをこ〻ハいこかをを

海りるむ海るこ〻とものを海へいへ海そ〻

言る

はもにそ〻むををををしこ〻はをれをををといる〻せん

ひの思へまる〻むをいそ〻る〻ふ友の物へ

いこ〻こ〻をいつこ〻〻むをるをををしし

み海こ〻つ〻をる

ををのこつるこへやをふ〻ふ〻むををへんを〻をるをのれ

まれらく花にさる君もなおをとき八後まもるハとえとそおもひね

かへし　河ら梨花 画

詠ぬふんたとしにこひつゝやとをへてそんまでもしきおもふ

君かるむかしこゝろさきおもかぬまは八のちにおもひとりて待ぬ

ぬきちのまるをとく傳しとうときおもくつとなる

人丸かく

星あるちかくてるところいとてのこらとにふたへてる月もかかん

かへし

別さまらなとハたくさちのうちも教のことをもいふつまむ

こる船のもとみ傳しとて人のかとよりやすのあし

あまのつをおもく作として

おもひのさくさりぬきやまのもかくて我ハやまの下までのうまをきとをなめ

返し

あひしたのつまを嬉しくもつる人やまのこゝのあとをたつねをき

讃岐院の住の御時の百首の旅人とよめる

ともかくもいくもある旅あらハおのれのかるてをおもひいてまし

きよむのうしなくくよめる

人やまのそをもる新ふきて八衣たちのくるへき日をとまて我かする

さくらへるきさしおさん八千るつるのつさハ非をたうちさくなむ

讃岐院の御その羅の旅のうて立そそ

詞花春

春花

夏郭公

同人もあさ寝をさまるみ山ゝ木のしたゝり時鳥れ

秋月

あさゝら同じ秋の月あをハ桐のさゝもさゝ雨もゝ

冬雪

降雪にいてゝ初雪とゝ雪をふる雪の消なゝとも

恋

逢ものゝ思ハぬとのゝいとゝ絶ゝ中ゝ思ゝ

東山ゝ雪ゝ氷る滝流ゝ

いゝゝたつあさの衣のゝゝ袖ゝ

ゝゝのゝ人のゝ

ゝゝ

おもゝ

ゝゝ

ゝゝ

ちく船ふのゝむきをるふせつのそくとよあさよとつ
あつくるとらふやりて浜となむむきてくゆのよらふ舟ぞ
むりし立中ねの心をてゝきりて数るとゝん
をといひて出そくをしてゆきをもとのあたりを
なのきとかきよ形てくよめる
さきく河くりあ出まてみをなりてまる歌る語了子札形し
おかしそうく好きの人ふか字ある馬の傳し
まつ孫傳しふあしをやうくさえまうるとゆ傳
しつきて
日の光暮まてくるうらきこそかくさへてきし人形よみるらむし

かゝきちの色をふよそてあまのまくまつりなさ
つもあいてゝむきる家ってきさのらきて島とあらん
まをく海のかけりふ船よ好きそるる時よめる
月とくもつ数のつとききなふてしへとふそかれ
謠歌波にあそえて神祇とよめる
榊とるほとふ宮出るにの神のありうりもちろちさるらん
信よの神と風もやまつるらん松よゆつてのくる志彼
廿八品のお好なのり
序品
みるきるその古へとさいひてくしきをまつりるのれ

方便品

譬喩品

藥草喩品

隨喜功德品

法師品

見寶塔品

普賢經

合佛附囑

乃至以一花

かなしそれの品一ふきのもくふをやそもはをまうもとそさく
さもこそそうさ世の中といひるかまうあとふるやハ

生在霊鷲山

さしのぬちるまもへきさるまの千載の世の新のくるむ

拙言説海

さしつの海きちひふきさそ仏のうさ世ふきつきさ

以仏教門出三界苦

さもおきさるまてふそすめいくのみとさめ人のとのそ

彩院五そ新きのくをとある

他縁大乗　五性各別

さるまをくのまるものるまハものつとかてたてしれ

覚心不生　八不中道

ふるまもさちぬるまのれみハさそさもむのまるそう

一道無為　一乗仏性

きれるまこの車のまめハまをまつまるるくやあます

極楽自性　三界唯心

千載釈

さるまくさそのくそひるさるつよあるとさくく

秘密荘厳　即身成仏

同釈

思月のくのふまさあるそハやてくるまるもとさくく

不浄観

風雅釈

無常思

空本迷

我念

地獄

不殺生戒

不偸盗戒

終不供

願極樂要發四加願我今無力在悪世中何時能披衆生因茲求生淨土方為衆生應知念仏修善為業因往生極樂為花報證大菩提為果報利益衆生為本懐爰修念佛三昧是第三願行法門無邊誓願知隨有所伏滅

是第二願行　煩惱無邊誓願斷　遠近結良緣
是第一願行　衆生無邊誓願度　積功累德是
第四願行　無上菩提誓願證　自餘衆善例知
不俟
衆生無邊誓願度
いとはさるこそいとをしけれ我しらみまくいるをもまむ
煩惱無邊誓願斷
苔よりもこのまたにぬる塵をたにそそきとる風まつらむ
法門無邊誓願知
法をもとかはの面をそなれぬるむかしの種とものふさんを

続後拾遺釈千観法師

無上菩提誓願證
この世をふりすてゝ月をおもてもてあそぶ人のみてをはりて
極樂依正功德無量筭分喻分非所知今舉
十樂而讃淨土猶如一毛滴大海云〻而題
此十樂之讃嘆詠其十首之哥頌夫動天地
感鬼神莫宜於和哥又動佛畧感聖衆惟同
者欤謂和哥者我國之語也漢土言偈頌天
竺云唱陀南而顕經論之肝心學佛法之髓
骨以偈頌爲規模因茲爲我國風俗以和哥
展彼十樂豈非至誠一心之讃嘆乎隨則大

聖文珠者諸佛智母也代飢人亟荅班鳩宮
太子之麗藻稱行基菩薩贈霊鷲山釈尊之佳
篇加之弘法者東寺密法之曩祖也涌五七
六義之言泉寄返報於高津焉傳教者天台
圓教之先哲也作三十一字之詞條祈冥加
於杣山矣自尒以降云貴賤云聖凡毎以和
哥不通情爰我朴之懇志在極樂以倭哥呈
之其詞云

聖衆来迎樂

[illegible]

蓮花初開樂

[illegible]

身相神通樂

[illegible]

五妙境界樂

[illegible]

快樂無退樂

[illegible]

引接結縁樂

聖衆倶會樂

見物聞法樂

隨心供佛樂

増進佛道樂

玉葉釈

星

拂塵使ヲ通ナ

曉の詩の

いそとともめてとりむまの月もおてぬるまの山路を

和字抄云

あくれもるおとのの冊のとらきと秋の日ことおくろしめる

澤蔵院住所の歌その山路

鳥羽むのつくりのことゆのふいつかもあはむとそ

同院住所歌をそ山もまに海路とよめる

主殿の月のえもさしいそぬまもまるとまるる舟もまるる

海路名所　内題なし

玉葉雜二　崇德院御制歌

るそふふくもあるむ川為むつそ神のちらあれ

東山ふるとくおれんとをえる

昔よりなとこるのいとなるはいさとまるとまん月ハ言ふ人とも

ふもまとの波の海よ毎ふつ月もあとのこのをもつ舟もを

風ふをあらふをこゆる志波のいるをとる名まおるん

毎もをきてもをめるむつ月ハもんをちをあこまを

澤蔵院住まおもまの所のををふ河のを海る

いをこ川のをこう社ををこ海ふ出をふ海をををる

同百をこの月のをを

玉ひをこのをこふをこぬ友をふ舟の月をいつなるこむ

おれ一百首ようちの舟公

海ををハつををこをる磯小毎ふる風やをのを紀也

同五月十日

かつらのゝもりのもとにて　中納言定平

仙洞歌合　久　　同歌五首

さゝめ雪ふりつもる世のゝのゝ　あはれ　いてゝ　ゝ　をまつ

山家　雪友　　同五首

ちゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

讃岐院位時　同五首

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

山家

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

讃岐院の位の時　同五首　乃同家

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

知　年　　同歌五首

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

御下　　同歌五首

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

面白き事の中に桜花の枝もたるゝふれてくちゆく
を通てなつかしう思ふ友とうるをを
行と捨て風にさそはれぬ人もうらやましそめん
説法院位の時所乃歌その詞のうち
あはれとも人もとゝまぬおくやまふたゝるこけの道もたえむ
同院位の時所の歌一首とよめる
くるのをまつるのおくやまつゝのもとやあさつゝまを
鶴鳴皐　内裏歌
おもふるにたゝのあはれをうれはしうやまふの人まをかく
東山をとゝくゝ家鶴副とをを

をとゝをとゝ八月をとゝ中秋の夜とゝ山家とをとゝ
林間鹿　内歌
月はをとゝをもあはれをとゝ鹿のいつをの枝よんをもとゝむ
説法院の位の時所歌をとゝ述懐とよめる
いとゝせんとゝ分をとゝ山のなをとゝ秋とをとゝ
内裏十五首歌　同人
秋なをとゝ夕をとゝ風ふりをとゝ
おもひ歌とよめる
うをとゝ夕をとゝ人あをとゝ
ひをとゝ人のをとゝ

[illegible]

海路述懷

[illegible]

讃岐院信[illegible]の序附の[illegible]懷旧の

[illegible]

少将基家朝臣の遇友の昔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返

[illegible]

讃岐院信[illegible]

[illegible]

田中脇[illegible]　[illegible]題百[illegible]

[illegible]

海上眺望

続拾遺雑上
なみまよりしらするふねのたゆたひにゆくへもしらぬとほのつり舟
しら櫻ちるかとみえておきつ風ふきこすなみのよせてかへるかな

暁餞人　句題百首

あかつきのわかれをしみおきてゆくのやすらひかねにそれのこる
さぬきの院位の時の御会のうたに
こし人のなごりをしさもきえゆくはいつをかぎりとおもひへだてさ

同院御そのうちに

新拾遺哀　おもひ新拾
秋風にあへずちりゆくのこるつゆのあはれぬ世とはしりにしや
わがとふもくるかはの袖にも消るときえての後やかへらん

ちかきころよりよめる
むかしの人なきにしてもかくれ侍らぬかたのむかしを
おもひをいでてのまへん内裏の後にやさえんかくかならず
なきてぬよもあるかなしもかれいかなるこのよに
うき世なくつひになかれいかならんさこそあれとも
まよわぬはあきらむかむとおもふるなかへ見るなきみ
ほひよりぞとはよりなき我もとなつもぬきのこと月とへ
栄雅と無常とへるを
なごしの空をこえるにはかなつきなく消んいのちをつく

無常不嫌人

世中にあるかひあるもかなしきもいつはいつはにまかるためしにて
数ならぬうきみなれども世中のさしぬるをとりてみつけてすら
ちゝもはゝもあるかひある人のしもおほくなる身中の
ほかにうちいでてよめる
うき身のよ何なりしへらおほく家のさわると人のうくてよるらん
しらるともえすなむとてみえたれともこよひよろこひも
なかうちいてて
さもそれはあやしみし人の家あらめむかしにおもぬひなおもろの風
光の絲ならむの絲のおもひとさしてよめる
暁のはうちきえはあまりいしのそらまかれさけるあまたくる

ちゝとこそなひくたのみしけるくおもひえけるに
かくこそ人の心とおもひて
さての女家にて中よりかへりてまかりてと申す涙にてよ
としおいぬるとくやまかるほかえと歌く
よめる
家のうちのこひしき身の涙さへんにぬれぬてあさきぬにぬと
はまにはまち家も夜さ袖とりするむのあたなりすを
とのくまのさかるなり船居のほかりとるるに
かへりきやしき涙もの身のわかさとてく
これ人のそへたりしきさに昔のしきえりやとてやいつかなるらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返一　唐言

唐土にて牛の舌のごとくに書もの出あるとゝ
やもちゝ[illegible]れたる人のをふをつゝたるの
その[illegible]をさうくのちゝ[illegible]ゝ[illegible]せさりける
たゝ[illegible]ちの[illegible]いつゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

返

人のこゝろたゞもれとこひるおもをるつきに
ゝく　よゝゝくしらに
きゝゝもをとゝめゝて我ゝ古ゝもふゝんまゝたゝあゝれ
あゝしゝうゝある
たゝゝれとゝのゝちふゝてゝつゝもゝんゝゝとゝぬゝゝてゝつゝる
静ゝゝゝれゝゝゝゝゝつゝゝる
ゝゝゝゝゝ

れきのたち
もゝぬのおもはれ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
観身論命旦暮在近述懐言志心情暫休但
寄源流愁呈雑體
混本哥
[illegible]
長哥
[illegible]
旋頭哥
[illegible]

短哥

[illegible]

返哥

[illegible]

[illegible]

あつさゆるくるちぬとやみてゆのこるまてみ
たなそこをはつのめもとまてぬるむいはしかとのみ
もはなとこのもとのはをうしまてまてまてまて
まいもなくいたてのはちるまてをあをいつまて
なるまてまてまつのうへのあるまてちんもとをまて
あのはをまてまてはなくはのもなしきかてあ
てるまてあてまつもなてまてまてまてはをはを
なるまてはてまてまてまてまてまてはをはを
はまてまてはてはてはてはてはてはてはてはて

もしくはのまてはなはてはてはてはてはてはて
てはてはてはてはてはてはてはてはてはてはて
てはてはてはてはてはてはてはてはてはてはて
てはてはてはてはてはてはてはてはてはてはて
はてはてはてはてはてはてはてはてはてはて

右貧道集以一本對校畢

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

内宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院蔵

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野蔵

春記三卷　同裏文書

右原本中山備前守信守朝臣蔵

九條右大臣集一卷

御堂関白集一卷
右二部原本丹鶴書院蔵
藤原家經朝臣集一卷
右原本仲田顯忠蔵
和泉式部續集二卷
右原本井上文雄蔵
源重之女集一卷
小侍従集一卷
殷富門院大輔集一卷
右三部原本仲田顯忠蔵

風尒津連奈幾物語一卷
右原本新見伊賀守正路朝臣蔵
已上揔十二部十五卷或分或合為十一本
戊申帙
釋奠供物圖一卷
諸陵雜事注文一卷
雜筆要集一卷
右三部原本村田春野蔵
春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣蔵

室町殿春日詣記一卷

右原本村田春野蔵

拵弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千頴蔵

萬代和歌集二十卷

前参議敎長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

乙寺縁起一卷

右四部原本丹鶴書院蔵

已上揔十三部五十卷為三十九本

亡酉帙　嗣刊

丹鶴城藏梓

賣弘所

三都書肆

京都三条通升屋町　出雲寺文次郎

大阪心齋橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門

江戸芝神明前　岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町　中屋徳兵衛